

昭和三十六年九月三十日招集

第三回市議会议決例会々議錄

館山市議会第三回定例会々議録

昭和三十六年九月招集

一九月三〇日(土曜日)

一現在議員三四名ごその氏名次の通り

一	番	山	本	昇	二	番	石	井	孝
三	番	三	沢	節	四	番	小	林	寅之助
五	番	江	田	徳太郎	六	番	鈴	木	孝太郎
九	番	吉	田	勇右郎	一〇	番	佐	野	信
一一	番	川	名	秀吉	一二	番	嶋	貫	壮作
一三	番	安	沢	徳順	一四	番	法	木	嗣郎
一五	番	嶋	田	繁	一六	番	遠	山	ヨネ子
一七	番	志	村	信作	一八	番	安	西	政治
一九	番	田	中	忠藏	二〇	番	北	山	茂雄
二一	番	後	藤	ゆき	二二	番	田	中	禄郎

二三番 吉田辰雄 二四番 飯田義男

二五番 脇田順一 二六番 岩崎静敬

二七番 鈴木市藏 二八番 加藤良太郎

二九番 萩生田七郎 三〇番 長谷川光江

三一番 田村喜兵衛 三二番 鈴木考

三三番 山口幸三 三四番 松本藤太郎

三五番 黒川佐太郎 三六番 山口康

一 議事日程

第一報告第九号 昭和三六年度七月例月検査報告

・ 第一号 八月

・ 第二号 九月

・ 第三号 監査報告について

・ 第一号

第二 議案第八号 公平委員会委員選任について

第三 議案第八号 教育委員会の委員選任について

第四

第七号 資金前渡をなすことのできる経費について

第七一号 前金払下すことのできる経費について

第五 第七二号 東用自動車（購買）について

第六 第七三号 可搬動力木ノブ積載用小型四輪自動車購入について

第七 第七四号 市有建物（の）売却について

第八 第七五号 館山市職員給与条例の一部改正する条例の制定について

第九 第七六号 定数

第一〇 第七七号 館山市有財産条例の一部改正する条例の制定について

第一一 第七八号 館山市財政事情の作次及び公表に関する条例の制定について

第一二 第七九号 議会の議決又は住民への徴収票に付すべき財産營造物に関する

条例の制定について

第一三 議案第八〇号 館山市実効に関する条例の制定について

第一四 第八一号 昭和六年度特別会計休養施設入支出追加予算

第一五 議案第八四号 昭和六年年度特別會計國民健康保險に入支の追加予算

第一六 、 第八五号 昭和六年年度一般會計に入支の追加更正予算

第一七 、 第八九号 館山市議会議事員会条例の一部を改正する条例の制定について

第一八 伝染病隔離病舎組合議會議員の選挙

第一九 議案第六号 土地の購入について

第二〇 第八十号 館山市公営住宅新設工事請負契約の締結について

第二一 、 第八十号 東用自動車、購入について

一 法律百三十一条による出席説明員

市 長 田 村 利 男

助 役 小 出 武 男

収入役 定 戸 貴

総務課長 山 口 実

秘書課長 山 谷 潤 和

税務第二課長 多 田 俊 一

衛生課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

市民課長

利田正男

農務課長

吉田耕一

保険課長

神作啓次郎

税務第二課長

高木西三

厚生課長

伊藤幸太郎

福祉事務所長

長谷川成岩

企画室長

谷貝茂生

選挙書記長

大島重義

消防署長

安藤亀吉

教育長

工藤和子

庶務課長

鶴沢貴寛

監査委員

川上栄

「本議会の事務局長書記および職員

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

同 兵藤恭一

取 員 山口晴之

「出席議員三三名

「欠席議員一名

一 一 香川名房吉

「本日の会議に付する事件

議事日程に同じ

午前一時開会

議長(鴻貫壮作君)本日の出席議員数二十九名、これより第三回市議会

定例会下開会いたします

この際御報告申しエグります。私はこのたび全国市議会議長会
会長、指名によりまして全国市議会議長会の国会対策委員
に選任されたのであります。が、かくの御推挙でありますので
御辞退もどうかと考へ、このたびは引受けらるゝことに
なりました。承るところでは大変大役であり、さういふ役目
にぞうであります。が何とかおんぼろでいく考へております
ので皆さまの一そうの御協力下を願ひいたす次第でございます
です。以上御報告申しエグります（拍手）

本定例会の議案説明のため田村市長、小出助役、兒戸収入役、
山口課長、山谷課長、多田課長、礒山課長、新井課長、利田課
長、吉田課長、神作課長、高木課長、伊藤課長、長谷川所長、
谷貝室長、大嶋書記長、安藤署長、工藤教育長、鶴沢課長、
川上監査委員、以上の出席を求めまして報告いたします。

会議録署名員の決定を行います。

本定例会の議録署名員は、一五番議員嶋田繁君、三番議員鈴木孝君以上両君を指名いたします。

これに御異議ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(嶋貫壮作君)御異議ありませんと認めます。

よって決定いたします。

会期の決定を行います。本定例会の会期について議会運

営協議会の意見は本日一日といたうこととであります。

おはりのいたします。会期は本日一日と定めさせていただきます。

御異議ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(嶋貫壮作君)御異議ありませんと認めます。

よって会期は一日と決定いたします。

本日、議事はお手元に配付の日程表により上程いたします。
まず市長、提案理由の説明を求めます。

(市長 田村利男 君 登壇)

市長(田村利男君) 本日、上程いたします。議案は議案第ヤロ号から
ハ号までの一九議案とミ茅村との伝染病隔離病舎設置の点
につきます。本月二十六日付で果知事の認可がございまして、
この組合議会の議員となるべくもの下、本議会から六名
選挙していただきます。こういうわけでございます。

議案について概略申し上げます。まず人事関係で本日
限り任期満了とござります。委員が教育委員会と公平委
員会にそれぞれ一名ずつありますので、その後任者の選任
について議会の同意を求めます。次に、^会計の支払方法
につきます。資金前渡し及び前金払いの方法によること
を望みます。経費についても議決していただく件、次に

東用自動車、売却につきまして現在使用中のプリンス
 クロリア下六十八万で千葉プリンス株式会社へ売却別途
 予算下計として新車下更新するということのものでございま
 す。次に小型消防自動車一台下購入する件であります。
 これは本年度当初予算で決定されております予算の範
 囲内で新車下購入しようとするものでございます。次に
 市有建物の売却につきまして同庁舎一括して売却処分
 しようとするものであります。次に職員給与条例と定
 数条例の一部の改正するものであります。給与条例の方
 は旭山町では食事給与としておこなうのでございましてこ
 れは現金給与に切り替えるわけにはいかないということであ
 りまして市は職員から食費下徴収するという方法にかえ
 ることになっております。定数条例の改正は機構の一部改
 正のほかは職員、自然増や臨時職員、定数化勧告等

の事情のう市長部局職員下若干増加するため改正で
あります。次に市有財産条例の一部改正につきまして
財産のみ規定である現行条例に営造物の設置と管理
に關する一般的規定^{追加}を加へて名称を財産營造
物条例と改正いたす。この条例一本で地方自治法第
二一条第一項の規定に適合する条例として具備させてい
こうとする改正であります。次に財政事情の作成及び
公表に關する条例の制定につきまして現行条例で多
りますと公表期日の関係から決算の公表が非常に遅
れるという点とこの外に条例の条文の整備をしない
部分が多いこととこれら^の点を改正しようとするもので
あります。さらに議会の議決または住民の一般投票に付す
べき一般営造物に關する条例 入札に關する条例の制定
であります。これは現在条例規定はあるのであります。

なる難点が非常に多いこと、法律の改正などの関係で
 改正する点が生じまして、際々これらの点の整備
 すると、もくわけりやすくみやすい条例とするために
 二本に分離いたしまして、まうに契約の議決関係につま
 ずいて従来の金額下約倍額程度に改正しようとするも
 のであります。次に追加予算は一般会計のほか、鳩山荘
 と国民健康保険会計の三会計についてであります。鳩
 山荘は前年度繰越金下財政といつて、まして経営費
 下六十八万七千二百円の追加であります。国保会計
 におきましては事業勘定部、事務的の経費下六十
 五万三百円追加いたしまして、この財産は前年度繰越金
 下も、て充ちてあります。

一般会計の追加額は千五百五十万四千三百六十円、この
 結果果計は内億二千三百四万六千五百五十円となる。

のでござります。おもなものといたしましては社会
労働費約五百三万 産業経済費約四百十六万円 市役
所費約百五十三万円 財産費約百三十七万円 で歳入分
は国及び県支出金約三百十万円 財産収入八百二十五万
円 寄付金六十五万円で残額約一千万円は前年度繰越
金下も、て流用いたす者までおります。

次の土地の購入費につきまして、は現在市民住宅の形で使用
しております市有建物、敷地六一四坪三合下百三十万で
買入れようとするものでござります。次に公営住宅新設

工事請負契約の締結につきまして、は第一種下二戸第
二種下二戸延二〇坪の新設下金八百六十五万円で契
約いたすというものでござります。次に乗用自動車の

購入につきまして、はプリンスカローラの一九六三年型下
金百三十三万円で千葉プリンス株式会社購入いたす

石城のていふいます。なお細い点にすぎない。これは各課長よりいさめやるつもりでござります。でよろしく御参議のほどをお願い申しあげます。

議長(鴻貫壮作君)日務第一報告第九号乃至第一三号監査報告を一括して上程いたします。

(書記 朗読)

報告第九号 昭和三六年度七月例月検査報告

報告第十号 昭和三六年度八月例月検査報告

報告第十一号 昭和三六年度九月例月検査報告

報告第十二号 監査報告について

報告第十三号 監査報告について

(監査委員川上 栄君登壇)

監査委員(川上 栄君)報告第九号について御説明申しあげます。去る七月十四日に実施いたしました七月例月検査の結果で

ご存じです。詳細につきましてはお手元の報告書の通り
であります。その大要を申しあげます。と六月中の市税
の収入は九百三十三万八千円でありまして収入の累計
額は四千三十一万四千円とございまして納期の到来分の収
入割合は六三・七％であります。前年同期と比較しますと
三・七％上昇してある次第でございます。市税の収入未済
額は九千九百九十六万六千円でありまして納期の未到来
分は八千二百三十四万三千元と納期前の納付額は三百三十一万
一千元であります。正味の滞納額は二千二百三十四万四千円と
なります。このうちには前年度の繰越分が千二百五十七万
八千円が含まれております。

夫れ面でありまして二千九百五十万四千円でありまして六千
三百六十六万一千円とございまして予算額の一五・％を支出
しております。特別会計につきましては省費をさせていたま

ます

報告第一〇号 去る八月一四日実施の「マ」マの臨時の納税査
の経果を御報告申しを了ります

マ月中のおもひの収入は市税において固定資産税七百五十

四万三千円 市民税が二百二十六万七千円 その他三百二十

二万七千円であり「マ」マの収入累計額は五千四百四十三万

二千円と「マ」マの納期への到来についての収入歩合は六〇、

二〇と「マ」マの前年同期と比較の「マ」マと五、九％上

昇してあります 市税の未収入額九千七百七十三万七千円

のあり「マ」マの納期の未到来分五千八百五十七万七千円と納

期前納付のもの、百八十六万四千円であり「マ」マの正味の滞

納額は三千三十六万千円と「マ」マのこのうちには前

年度繰越しの滞納分が千二百二十一万九千円含まれてお

ります

天お面は二十十九万でありまして累計額は八千三百八十
五万圓 予算額は、以下天おしてあります

特別会計につきましては有累させていたります

報告第一号九月一三日実施につきまして九月例月検査
の結果でございますが八月中、市税のおもな収入は市民
税四百四十四万二千圓 固定資産税千七十九万六千圓、
たばこ消費税二百二十八万九千圓その他七十万六千圓で
ありまして収入累計額は七千二百六十八万六千

円です。納期到来についての収入歩合は七六・五%となつて
まして前年と比較いたりますと五・一%上昇してあります
す。市税の収入未済額は七千五百万二千圓であります

て納期の未到来のもの五千五百七十六万七千圓と納期
前納付額は百三十三万三千圓でありますので正味の滞納
額は二千百五十六万七千圓となります、このうち

は前年度の滞納繰越し分が千百九十五万二千円含まれております。前年同期に比較いたしますと五、一％滞納が減少してゐる次第でございます。

税外支入四百九十五万六千円。そのおもなものは国庫支出金二百四十万一千円。その他二百五十五万五千円となっております。

支出面は二千五百九十七万三千円でありまして累計額は一億九百八十二万五千円。予算額にニヤメ下支出してあります。そのおもなものは下申してありますと高崎湊、

港の維持負担金五十万、館山改良工事負担金百万円、一中の増築工事契約金として三百七十五万円、百六十万円、館山^高校々長の渡米視察白万円、バキュームカーの購入費百五万、公債償還元金八十一万四千円、利子が百五十一万となっております。

特別会計は省要マせていたります。

報告第一二号八月一日実施の了の公益債厘の昭和三五年度の納め他監査の結果の御報告申しを了ります。詳細にづきましてはお手元の表の通りであります。

すば貸付の了と昭和三五年度は二百六十四万三百円であります。前年と比較いたしますと七割減少しております。これは経済事情の好転に伴い利用度の減少

したものと認めます。収入支出の状況とみまするに収入が五十六万九千五百四円、支出は百三十五万二千九百九十七円で差引が七十八万二千六百九十三円の損となっております。貸付金の三四年度以前の回収未済金は四十一万二千五百九十円でありましてその内訳を申しとります。すと三三年度は四八件、三万九千六百五十円、三三年度は百二件、七万七千七百七十一円、三四年度は一九九件、三十一万

千二十月となりております。この引取品も数ヶ年放置
 の状態にあるために特に古く製品、雨ガッパ、家具等は甚
 だしく損傷しているものがありまして、流し物、処分につ
 いては処分台帳に登録いたしましてそれぞれ明確にす
 べしと一括処分するものも明確に欠くものがありまして、
 報告第一三号は去る八月三日実施いたしまして豊房診
 療所の昭和三十五年度の出納その他の面につきましての
 監査の結果報告でございますが詳細につきましては
 お手元の報告書の通りであります。その大要を申し
 上げますと診療状況は三十五年度の収入は三百五十七万
 円でありまして前年と比較いたしまして一三%増加
 しております。

支出面は三百二十四万四千三百六十円でありまして差
 引ますと二十六万六千六十円の黒字経営となりております。

す。収入未済額四十四万二千五百九十一円ありまして
三十四年度以前未収金は二十七万二千二十五円となつ
ております。これはほとんど請求しても放置の状態
にありました。現金管理について申し上げますと診療
所窓口で徴収する現金下出納員が手まづ金庫に
数日間放置しておくことは現金管理上保全上欠くも
のと認めました。以上下もって報告を終ります。

○委員長 早川君 公益質屋の監査の問題に關連いたります
て、お尋ねいたりたいと思ひます。公益質屋の利用
度が、うめめて少くなつた。これは経済情勢の好転に
伴うものである。かゝうにお考えのようによ報告され
ておりますが、なるほど経済事情が好転しております。
この一から巷間よくとらへておりますといわゆる漢業
の不振という面からいまして、須草がなくなつて利

用できないということと下私どもしばしば聞いてゐるので
あります。本當にそうであるとするればこれはまた考へ
ていかなければならぬ。かように考へます。こうい
点につきましては當局としてはこの利用度の減つたとい
うことは監査委員の御報告の通り、全済情勢の好転に伴
つてこれが減つたのであるが、あるいは先ほど申しさ
す、いろいろないわゆる賃草がなくて利用したくても
できないのだという切実な問題から考へてゐるのか、その
点どういふふうにお考へになつてゐられるか、それが一つ
さうなために関連して、そしてこの問題につきまして
は先の議會でもある議員が、賃向がありまして、この
賃屋の利用時間でございすが、これを考慮して、ま
したと、ろが効率が多くなつたということと下私ども聞いて
ゐるのでございします。賃屋を利用する層といひ、ま

すか、そうして人々らの気持で考えますと、昼間堂々と
いくところは少ないのではないが、夕方人目下しの人でもい
くということがある。かように考えます。そういう時間
の点も午前中やうな点でもない、から午後からや、て夕
方まで時間と延長する考えはないか、こういう質問
が、あ、と承、てあります。が、そうして、ことごとくうれて
あるかどうか、お伺いしたい。

厚生課長(伊藤幸太郎君)お答え申し上げます。

御質問の第一点でございます。削減、であるということ
は、私も考えております。しかし、反面今御質問にも
ございます。非常に不況なために、という点につまづい
ても、具体的な問題として認めており、~~それ~~、そういう状
況でございます。この解決の問題につまづいては、第一
二点に、つなげるわけにござい、ます。が、時間の延長に伴、て

そういう問題の解決の一助にしたいということとは考えてお
ります。すばやけり勤務時間等の制約ということも考えま
す。さらに各公益質屋の連合会のような機関もござい
ますので、それらの機関とミミ関係の市に対してござい
たい。それでございます。が、実施してあるようないないよう
な状況でございます。であります。で、正式に実施して
あるないけれども状況に応じてはというふうな面もある
ようございます。ので、それらの点につきまして、十分
考えて参ります。こういうふうな考えてあります。

二番（山本 昇 君）でございます。課長さんの御答弁では、私ども
ちよつと細得でございなくて、すが、もちろん勤務時間、その
他の規定につきまして、関係があらうと思ひますが、庶
民階級の金融機関ということは、多分に社会政策の
一つとして取上げられて、いる問題でありますので、

るから課長さんもお認めのようになつてゐる。利用
度バクンビ、てゐる。その打開策として私は時間の
点で考えていゝまいなうはそういふことも解消す
るのではないか。こう思ひます。そこで政府は生きている
という建前からいゝまゝしてで得るならさういふこと
下々といふ規定がさうであつて、たとへても市民大衆のた
めであるといふことであつて、なうは夕方少しでも延ば
していいまいか。今後十分お考へ願ひまゝして市民
のいゝゆる金融機関の本末、目的のためにお考へ下
さいます。さういふ切にお願ひ申しを致します。

一六番(遠山ヨネ子君) 豊彦診療所で監査報告に収入未
済についてというところ、雑収入が多いとあるのですか。
それはどういふことですか、それかう最近
ないというのはどういふところが未済になつてゐるか。

・保険課長(神作) 答次郎 君 豊彦 診療所の収入未済について

御質問のようでございますが要するに診療所ですって
 いろいろ家庭の御都合で窓口払いしてお帰りにする
 なかへ、 こういうことが負担金の未納ということに
 なるわけですがこれについては私たちはどうもだけ
 窓口払いしていったく 現金払いしていったくよ
 うにお進めしてあります都合でお持ちになうないで
 ということで黙認してあります。ーかしなばうこれ
 だ黙認するということとはやはり運営上まずいので
 お氣をさめうない 程度にこの徴収方法を請じてお
 るような次第でございます。 ですから未済を少く
 するようになりておりますがいろいろ事情のため
 こうして年々幾分かの未済がございます。

最近なくなつたということは私たちはそういうような

気持ちでできるだけ徴収成績を上げるということが
一つ、なお豊房の区長さん方がこの徴収に非常に
協力してくれていろいろおかげでございまして年々未収
金も少くなつたという結果になつております。

議長嶋貫杜作君 脳脊報告以上で即ち承願いたします。
日程第二＝議案第一号「議題といたします。

(書記朗読)

議案第一号 公平委員会委員選任について

市長(田村利男君) 公平委員会、委員選任でございしますが
前委員で小栗愈吉君が九月三十日まで任期満了になりま
して解任されるわけでありまして小栗愈吉君は元安
赤中学校出身、中央大学の法科下でございまして非常に
温厚篤実で公平委員として最も適任と思われまして
でさらに四年間小栗君下選任いたすというわけ

でございましてので御了承のほどお願い申しあげます

議長(池貫杜作君)議案第八号討論有畧原案通り決定いた
しますに御異議ありませんか

(異議ナシ)と呼ぶ者あり

議長(池貫杜作君)御異議ナシと認めます

よ、て決定されまして

議長(池貫杜作君)日程第三議案第八号ト上程いたします

(議案第八号)と呼ぶ者あり

議案第八号 教育委員会、委員選任について

市長(田村利男君)教育委員会委員について小柴源吾君ト

推薦申しあげたいというわけでございますが小柴源吾

君は大正一〇年三月安房中学ト卒業 大正一一年四月

官立東京外国語学校支那語科ト卒業後樺太庁

の投入課長などを経てその後満州拓植公社に入社各地の出張所長です本社に係長などやっておりましてうちに現駐します、終戦下から内地に引上り後は旧国府村川田四五番地に居住してあります昭和三年九月館山市に居住結婚と申しますと引揚げの最中奥さんと子供を全部なくしてしまつた、一人で帰らなければならぬといふ非常に苦勞なところ、方でご存じです、現在豊原八八九番地に居住、昭和三年館山市農業委員会委員に当選、昭和四年四月館山市亀ノ原区長に当選、昭和三年九月安房土地改良区の理事に就任して今日に至り、現在農業に従事しております、私バ下級生でございます——先輩としてみな小柴君は人格職員とも今月まで館山市にその名は知られておりまして人々が那古船形方面から一人おいていということで船形

「神作君（あつと）」御古地已から求めまして小柴君下推薦
いざいわけでございますのでよろしく御奉議願いたし
と思ひます。

議長（鴻貫壮作君）本業下討論省畧原案通り決定いたします
すゝと御奉議願いたします。

（「異議ナシ」と呼ぶ者あり）

議長（鴻貫壮作君）御奉議願と認めます。
よゝて決定されまして。

議長（鴻貫壮作君）日程第四議案第七〇号 第七一号下一括上げい
ろゝます。

（書日記 胡説）

議案第七〇号 資金前渡下りますことのできる全費について
議案第七一号 前金払い下りますことのできる全費について

総務課長（山口 実君）議案第セロ号 並びに七一号について即
説明申し上げます

議案第セロ号は資金前渡といふことにて郵便切手購入
費 健康保険で扱つております助産費 葬祭費下
前渡いで扱おうとするものであります

七一号は前金払いといふことにて保険料 日本放送協会
に對し天払う受信料 それほか打切り旅費これ下前金
払いでお願いしようとするものであります

自治法の一五三条にこついつに資金前渡 前金払いこつ
いつに設置する場合に市会が議決を得るこついつに規
定のあるのでござります この御許可によりまして扱ひが
法的に違反せず事務的に非常に好都合であるのでこの際
この点にお願ひしようとするものでござります

議長（鴻貫壮作君）議案第セロ号討論省原案通り可決いた

いまする御異議ありませんか。

(異議 ない) と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議 ない と認めます。

よって本案は原案通り決定いたす。

議長(鴻貫壮作君)日程第五議案第七号下工程 いたす。

(書 記 朗 読)

議案第七号 乗用自動車売却について

。總務課長山口 実君)議案第七号について御説明申し上げます。

ます。

この売却しようとする自動車はプリンスケロリア

一九六〇年型 この自動車購入の当時皆さんの御意見

では同乗車の新車下買、一二年後使った後に処分す

るのが適当だ、こういう御意見下承、たつてございます。

す 今回、將期的には一年半を過ぎ、ておりますが
すでに三万キロも使用してあり今後修繕料がかなり
とは必然でございまして、この際六十八万円でグロリア
下処分しようとするものでございます。

議長(鴻貫壮作君)議案第七三号討論省原案通り決定いたす
ますことに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議なしと認めます。

よ、本案は原案通り決定いたす。

議長(鴻貫壮作君)続いて日程第六議案第七三号下上程いたします。

(書記朗読)

議案第七三号、可搬動力ボンプ積載用小型四輪自動車への購入について
。総務課長山口 実君(議案第七三号)について御説明申し上げます。

こゝに購入しようとする車は西岬の第一四分団見物地先で積載用の車にかえようとするものでございます。

現在一四分団の車は約三〇年前、非常に古いものであります。――緊急出動の場合などに事故が多くてほとんど使用に不えない状態であるので本年当初予算で御許可下さい。――マツダB-150と随意契約により購入しようとするものでございます。マツダB-150はすでに市場にはでていない新しい車でございまして六〇馬力積載量一トン耐久力構造等この車に最適と思ひまして購入しようとするものでございます。

議長（鴻貴壮作君）議案第々三号討論省界案案通り可決いたしますことと御異議ございませんか。

（異議なし）と呼ぶ者あり）

議長（嶋貫壮作君）御異議ござーと認めます。

よって本案は原案通り決定いざーまー。

議長（嶋貫壮作君）続いて日程第七議案第七四号下上程いざーまー。

（書目 記 朗 読）

議案第七四号 市有建物へ売却について

除務課長（山口 実君）議案第七四号について説明申し上ります。

こゝに掲げまーる建物には旧市庁舎でございます。

昨年四月新庁舎に移転し、その後旧庁舎は下市の

建物に利用できるか考えておゝつてございます。が何

う利用価値がないの、現在に至つては現状であります。

まー、本年度より建設にかゝる消防庁舎の建物の敷

地の予定地となる関係上、どうしても、此の建物の下地

分り分けられざるというに至つて、このとおりであります。

つぎまゝに市民一般に入札告知をする関係上九月の市
広報によりますに入札告知を行いました。入札に参加
したのは三名、に掲げられた不動産株式会社取締役
役社長渡辺桃羊、正木の大野行一、長須賀の太田木エ
の太田留吉三人でございます。この三者で競争入札とい
うことは第一回は低かった。でもう一回入札をお願い
したのでございますが皆さんがもうこれ以上でございとい
い、で最高額の人と随意契約の形でございまして、合
つてい、という線にたち至つたのでございます。それから
最高の人と合つ合うことになり、たのでございますが二日間の
猶予を与えていたんですが、い、ということとで別れたのでござい
ます。その後二日間の猶予をとつて、でまた値段が、に掲
がてありまして五十万一千円でありまして、これでもら
て最初には競争入札でございます。これが随意契約の形と

リマシメた分と、このご意見です。以上であります。

議長（鴻貫壮作君）議案第七四号討論省署提案通り可決いた
します。御異議ございませんか。

（「異議ナシ」と呼ぶ者あり）

議長（鴻貫壮作君）御異議ナシと認めます。
よって同案は原案通り決定いたします。

議長（鴻貫壮作君）日程第八議案第七五号下二程
御異議ナシと認めます。いづれも可決いた
します。

（書 記 朗 読）

議案第七五号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制
定について

秘書課長（山谷潤昶君）議案第七五号について御説明申上げます。
今回改正しようとしてます給与条例中の第一三条第二項第一
一、二号は市の方の特殊勤務手当、休養施設国民宿舎に

従事している者、特殊勤務手当てでございまして従来は支配人は三千円その他の職員は千円を支給してゐたのでございしますが食費は現物給与してゐたのでございましてこれは所得税法では現物給与とするのはおもしろくない。さう市の監査委員の方から御注意がありましてそこでその後収入役を中心にして調べて関係者で研究いたしまして結果大体食事費として毎月職員から二千円程度のもので市に納入させるということになりまして、その二千円を納入させるために個人の負担が大きくなりましたのでそれに具合うだけの特殊勤務手当てを増額しようとなりまして税金等も考慮いたしましてあつた二千三百円ずつ増加しようとしてございします。

議長 鴻貫壮作君 議案第弐五号 討論省略 原案通り可決いたします。と御異議ございませんか。

(「里議」——と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御里議——と認めます。

よ、て同業は案来通り決定いづ——です。

議長(鴻貫壮作君)読いて日程第九議案第七六号下上程いづ——
ます。

(書記朗読)

議案第七六号 館山市職員定数条例の一部を改正する条例の制定
について

秘書課長(山谷潤初君)議案第七六号について御説明申上げます。
今回館山市の職員定数条例の一部を改正しようとする議案で
います。従来館山市の定数条例は市長事務部局に
おきまして合併当時は三十七名その後三十七名に減員いづ——
まして昭和三十三年四月二七名に減員したのでございます。

その間採用しないでい、職場は採用せずにお臨時にやれるものは臨時職員で採用してどうか。今までやってきたのでございますが今回機構の一部で改正してと企画室等の機構改正 それと臨時職員、常勤的職員そのうちの一部で定数化しようとの果、勅告がありまして、こので二十七名で二十四名にしようとするものでございます。合併後新しく増えた、ておりますのは運転手の一〇名 国民年金係の七名 企画室の四名 保健婦の一名 便丁の一名 国民宿舎の九名 土木係の三名 合計三十七名新しくふえたものでございます。それからうち臨時で補充してまいります。つて現在四三名おります。そのうち長期臨時とみまわれる四〇名のうち三三名で今度定数化しようとするものでございます。よろしくお願ひ申してまいります。

議長 鴻貫 社作君 議案第六号 討論省民厚生案 通り可決い

ハ一三丁に御座議ありませんか

(「御座議」)と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫杜作君)御座議」と認めます

よ、同案は原案通り決定いたす
暫時休憩いたす

午前一時一五分休憩

午前二時三五分再開

議長(鴻貫杜作君)休憩前に引続き会議再開します

日程第一〇議案第七号下上程いたします

(書記朗読)

議案第七号 館山市有財産条例の一部改正する条例の制定について
総務課長山口 実君(提案理由)下申いたします

館山市有財産条例には營造物の設置及び管理に関する一般規定はなからぬのでございすすが今回この部分下追加訂正いりまして地方自治法第三十一条一項の規定に適合するものによりうとするものでございすす。

地方自治法三十一条一項の規定下申し上げますと、普通地方公共団体は法律またはこれに基く政令に特別の定めがあるもの下除くほか財産の取得、管理及び処分並に營造物の設置及び管理に関する事項は条例でこれより定められぬのでございす。この規定されてあるのでございす。従いまして今までの市有財産条例に營造物下加えただございす。内容に入りまして館山市有財産及び營造物条例でございす。四条、二項は營造物の取得に關係する事項下申し上げぬのでございす。次に六条の二でございすすがこれは營造物の管理に

ついてはそれ／＼条例規定で定めるといふこととござります
ます。次に營造物下り金した場合とござります。
こゝに掲げてある方法でもって告示しなければならな
い。このやうに条例下付け加えて改正しようとするもので
ござります。

二番(山本 昇 君) 二番お尋ねでございますが今の説明によ
りますと地方自治法によつてこゝういふやうな規定下りづけ
ればならぬのだ。あやうな御説明でござります。これは
最近でまた規定であるかどうか。古くからあつたこと
れば館山市はこゝういふもの下やるのはどういふためであ
らうか。

もう一つは營造物は公共の用に供するものといふことに
ござります。館山市のこゝの条例に基く營造物として
具体的にどういふものがあるか。その点お伺いいたし

ます。

・総務課長山口 実君）當時作られた館山市有財産条例でございまして、これは昭和三十一年条例第六号で制定してあります。その後改正によりまして、戦産条例に更に營造物関係も規定して条例設置するようになつてゐたのでございまして、當時この本法は昭和二十七年法律第三〇六号によりまして自治法が改正されてゐるのでございまして、戦産の取得管理及び營造物の設置、これは昭和二十七年の法律で定められてゐるのでございまして、市は三十一年の市有財産条例ができておりますが、營造物の点で忘れられておつた、こういうふうな解釈をしてゐます。

それらの營造物関係は公共団体、特定、目的に供せらるる人的物的移設の合一体系で、物的要素と人的要素

来が有機的な体系を形成して住民に益を及ぼす所有権、対象にすぎない財産と異なる。一応営造物というものは建物、そういうものも含んだ施設、こういうもの、営造物といふ、であります。館山市といふ、――――では学校、道路、公営企業、こういうもの、――――であります。一巻(山本 昇君)　　そう――――すると昭和二十七年にすでに自治法によつてそういうもの、下作らなければならぬ、という規定がされておつた。館山市におき――――は営造物の規定は――――でなかつたので、今回必要と認めて作る。こういうわけでございますね。最近、こういうもの、下作れ、ということではないのですね。

・総務課長(山口 実君)　　そうです。

・一巻(山本 昇君)　　それから営造物の解釈ですが、法律的にいうといふ、――――あります。――――具体的にいふ、――――いうもの

のは管造物であるというところ、
教えていた

・除務課長(山口 実君) 学校道路 公益質屋と場 図書館
そういうものでござります。

・三五番里川 佐太郎君 第四条の二の「義務または負担下伴
う寄付とあります。これは当然のこととで自治法でま
められておるので、今までは、
た、

・除務課長(山口 実君) 管造物に対する条例は、
た、

・三五番里川 佐太郎君) と、
管造物とみて、
た、

・除務課長(山口 実君) も、
み、
た、

・二七番志村 信作君 管造物に対する法的解釈を説明され

たようにすが人的と物的の両方の面からなっているように
すが道路の建造物とみえすならば橋梁も当然み
えされるべきものと思ひますがいかにものごひい
まうか

総務課長(山口 実君)一六九号議案によりて御了承願い
ます。

一七番(志村信作君)七九号議案には道路はごひいませんが
総務課長(山口 実君)普通道路ではなく公園とかに含ま
れてゐるとかそういういりゆる構成されたい一つのもの下
まいてゐるものであります。

一七番(山口 実君)今課長さんの説明でわかりました。
一般の道路を含みきれないのは当然でございすすが橋梁
の方はいかにございす。

助役(小出武男君)橋梁道路でございすすが一般概念か

(里)議サーと呼ぶ者あり

議長(嶋貫壯作君)御座議サーと認めます

よ、同案は原案通り決定い、う、う、う

休憩い、う、う、う

午前一一時五五分休憩

午後一時一五分再

議長(嶋貫壯作君)後、出席議員数三〇名休憩前に引続き会議

下開をう、う、う

日程第一一議案第七八号下上程い、う、う、う

(書記朗読)

議案第七八号 館山市財政事情の作成及び公表に関する条例の制定に

ついて

総務課長山口 実君議案第々八号について提案理由を申し

上げます。

現行条例の規定では決算の公表が非常に遅れるために年一回の公表期日を変更するとともに規定内容を整備するため従前の条例を廃止しようとするものでございます。

内容に入りまして第一条の目的でございますがこれは前回の条例にもございまして、この中に地方自治法第百四十四条第一項の規定がございます。法律の内容を参考にして――

上げますと、普通地方公共団体の長は条例の定めるところにより毎年二回以上予算の使用の状況、収入の状況並びに財政公債及び一時借入金の現在高その他財政に関する事項を説明する文書を作成し、これに住民に公表しなければならぬ。もう地方自治法に財政事情を公表するものと義務づけられておるのでございます。

次に第三條は今回の期日の変更でございまして従来、條例は毎年五月一日と十一月一日と規定しておつたのでございまして、今日五月三十一日及び十一月三〇日と改めようとするものでございします。

次に掲載事項でございします。今までの條例の五月一日公表の内容は前年度一〇月一日より三月三十一日と五月一日に公表したのでございします。第二回目の公表といつて、十一月一日は四月一日より九月三〇日までの状況を報告したのでございします。今回の改正によりましてこの五月三十一日作成する財政事情でございします。これによつて過去には五月一日であつたものが、五月三十一日と一ヶ月関係上、前年度の決算状況が五月三十一日には、つまりするので決算報告するに非常によい。こういうことになるわけでございします。第四條は公表の方法でございします。付則でございします。

今までの財政事情の公表に關する条例を廃止しようとするものでございます。

・三四番（松本藤太郎君）財政事情報告ですがこれを見ますと公表の方は市の広報にこれによつて掲載する。こう解釈するものであります。もう一つどうだとするならば前金事情報告を見ても、これは何か非常に見覚えがない。普通の広報にみるような感じ。しかし、要するに財政事情に對して市民としての意欲が、これも出てこない。これはできることなら希望として申し上げるのです。財政事情の下るときに普通発行している広報とは違つた色彩をもつてやつてもらいたい。このように考えるのです。すがその点はいかゞなものです。

・結勢課長（山口寅君）さういふの御要望でございます。すがこれ各市に對してはこの公表を色刷りの広報によりまして

公表してあるように思います。本市は最近二回
のじふいまするが図表によります。公表してあります。近
く将来においては今市も色刷りの何かにして市民の目
下にくくうが方同にもっていきたいと思います。

・三四番(松本藤太郎君) 今お、一やるようにすぐや、ていたけれ
ば結構な人です。条例の第四条をみると市の広報でやる
というから広報でやるにしてもうが。目ばえのするも
うでや、ていた、うてい、このように希望してわけです。

・務務課長(山口実君) 至急やるように努めます。

・議長(鴻貫壮作君) 議案第六八号討論省畧原案通り可決いたし
ます。ことに御稟議のいませんか。

(「稟議」と呼ぶ者あり)

・議長(鴻貫壮作君) 御稟議と認めます。

そして同案は原案通り決定いたします。

議長 鴻 貫 壯 作 君 日 程 第 一 議 案 第 七 九 下 工 程 以 下 申 上

(書 記 朗 読)

議案第七九号 議案の議決または住民の一般投票に付すべし財産
營造物に關する条例の制定について

・ 佐 野 謙 吾 山 口 実 君 議案第七九号について御説明申し上ります
理行条例は規定内容の箇所が非常に難解の箇所が多か
らのでございします。それと合せて今回地方自治法の一部改正
に伴い、三つて一部分改正する部分と、この理行条例を廃止い
らう三つて旧来の条例を二本に分離いらい三つて極力
安易な規定とするにとりモットーといらい三つて三つてに
新理行条例の形式をと、そのでございします。

内容につきましては御説明申し上ります。提案理由に申し上
り三つて三つてに理行条例には議会の議決または住民の一般
投票に付すべし財産營造物に關する条例と次のハロ号

議案、館山市契約に關する条例、これは一つの条例に含まれて
おつたのでござります。これ下表題のようになつて、
取得管理に關する条例と題して、これに含んでござります。

第一、条目的、これは地方自治法第二十三條一項の規定に申
し上げられてござります。参考までに自治法第二十三條一
項の規定に申し上げます。「普通地方公共団体は法律
またはこれに基く政令に特別の定めがあるもの、を除く外
財産の取得、管理及び処分並に、管理、施設の設置及び管理に
關する事項は、条例で定めなければならない」と。この
点に、これに基く政令に特別の定めがあるもの、を除く外

第二、条文中、地方自治法第九十六條一項七号の規定の財産の取得
または処分及び管理施設の設置または処分、これらのもものが
議會の議決を経なければならぬと、これは、揚子川に於ける
おいて、第九十六條七号の規定は、条例で定める重要なる

財産、取得又は処分及び建築物、設置又は処分すること
でございります。これらについては事件議決として議決を要
する。こういう規定でございります。

三 第四条は従前の条例そのまゝでございります。今商した
関係上、に掲げられてございります。

一 番(山本 早 君) 課長の説明で一応了解いたす。ただ三
番尋ねたい。ます。

第一二条で地方自治法第九六条第一項第七号で議会の議
決に要するけれどもないというの、は基本だろうと思ひ
ます。が一区画四〇〇坪以上の土地、それとその他市長が
重要と認めるものというのがあります。それについて
具体的にどういうものがあるかと尋ねたい。

それと一区画四〇〇坪という基本的な線が、にあるという
ことと下前提という。ます。で第四条の一区画四〇〇坪以上の

土地ということが規定されてゐてそれについては出席議員の三分の二以上の賛成でなければならぬ。一区画二〇〇坪というところが規定されてゐるところにもつて四〇〇坪以上ということは矛盾というものが感じられますがこれに対する解釈を御座いますか。

総務課長 山口 吏君は一区画二〇〇坪以上の土地一畝にわたるものは財産の処分でございます。次に四条の一区画四〇〇坪以上

の土地でございますがこれは独占的利益を与へるような処分でございます。次に市長の重要

と認められる具体的な件でございますが一つの事件で利害関係が相反する、こういうことが可能で、ある場合には、場合でてくると思つてます。

議長 鴻貴社作君 議案第七九号討論有畧 原案通り可決いたす。す。御異議ございませんか。

(「思議」)と呼ぶ者あり

議長(鴻貫壮作君)御思議と認めます。

よ、て同案は案案通り決定いたす。

議長(鴻貫壮作君)日程第一三議案第八号を上程いたします。

(書 記 朗 読)

議案第八号 館山市契約に關する条例について

飛騨課長山口 実君 議案第八号について御説明申し上げます。

従来の館山市の契約条例はミウ、第一目瞭然の処置の

で、さうな方針が条例にとうれていて、ハ、でござい

ます。それと合せて第五條の普通議決に關する類

でございします。これも類々従来の条例は昭和九年に

で、さる条例でございして、至濟事情も相当変、ハ、賤

政事情も変、ハ、關係上一応過去の倍額程度、類々適当

と思ひます。こゝに掲げた次第でございます。

次の特別議決に關する契約も同様提案の類より信託に近いもの下ゝに提案し、次第でございます。

内容に入りまして第一条目的といつて重要な財産の契約の場合に議会の議決を要するといふことであつてあるわけでございます。

第二條は一般競争入札の原則下ゝに明確に、この第三條は指名競争に付する限度額でございます。このうもの下明確に、このものでございます。

二項も特別の措置として、このものでございます。

第四條は随意契約による限度額でございます。

第七條でございます。こゝには今までやつておつたのですけれども、事務屋でも、こゝでは、この条例に表わして、こゝと議会の議決前は仮契約と議決し

たあとは本契約とこうは、きりするわけです、

第八条は入札制限額でございます、　　こういって点下ミ、
に銘記したのでございます、

付則で「この条例施行の際すでに契約の成立したものに
いてはお従前の例による」すでに契約されたもの、措置
下ミ、かうな、なものでございます、

○ニ九番(萩生田七郎君)ちよっと伺います、この契約に因する条
例でありまするが、額が物価の上昇につれて倍位に上った
という理屈はわかります、入札の制限額です、その
パーセンテージは従来と変わりありませんか、それとも多
少の変更があるかどうか

・総務課長山口 実君 従来と同じでございます、

○ニ九番(萩生田七郎君)御当地下信賴、こういうもの下あま
かせするわけでありますが、従来しばらくあります、なご

とくいわけゆる議決前に實際に頭下決定して一まつて契約が成立してあるという例がある、再三の注意によつてそういうことになり、と思ひます、ミハ下嚴重に遂行していへばいいということ下希望いります。

。總務課長(山口 実君)契約の成立についてはそのように努めたいと思ひます。

。三五重川佐太郎君第四条の二です、臨時急施を要するとさというのがあります、ミハと専決処分との関係下御説明願ひたい。

。總務課長(山口 実君)専決処分とは關係なく急施を要する場合に特々うなものであります。

。三五重川佐太郎君専決処分はもちろ人緊急を要する場合です、もし専決処分であつたならばあとで議会の同意を経なければならぬ、この場合は同意を経なくて

もいひのせしよ、議會と一ではあつて専決処分でやつてもういいい、

。総務課長(山口 実 君)専決処分やりましてもいれゆる普通議決に要する契約 それから特別議決に要する契約 これらの關係するものが生じた場合にこれは直ちに議會の議決を経る、いれゆるこの類に達しないものは議決の—ようがないと思ひます

。三五 重里川 佐太郎 君 それでは輕易なもの、この金額にあるもの以内というところでこの場合は了承してよろしくございいますか

。総務課長(山口 実 君)その通りです

。一 重山 本 昇 君 地方自治体バミュータもその契約するものといはれ分するということとそれから議會の決議が必要だという趣旨がいれゆる市民の納めて税金を使ふつに

市民の代表である議会の承認が必要だという観点から
こういうものは決定される。こう解釈してよりまずそれが
決めつて——て今度市当局が一挙にして倍額程度のも
の。それ以上のもの下議会の協賛が必要だ。かように
決定されるようにごい——てその点につまずいてあ
つと私も考へさせられる点もあるのごい——す
そこで早速おしるいのですが今度こう——なことをやるに
先ほど課長さんの御説明にあったように経済事情の変更
ということが最大唯一のことであつて市独自の見解でこう
——なもの新——決定しな。あるいはそうでなくて要す
るに県下の各市でもこういうこと下やつてあるのだというこ
とで各市ともこういう、不協定であるというのとやらのか、とち
うであるが、これは一つ

それからさらに第五条の表の中へいろいろ規定されてあります

すべし、三、四、五とあり、大に前各号に掲げる以外のもの
というのべありますし、また大条の横にもございますが、こ
れは具体的にいって、どういふものであるか、この点をお
しえていってほしいと思います。

。篠原市長 山田 実君 この契約額でございますが、果下の状況と
調へて、大に市によつては非常に高額のもの、下エがておる
そういふ点で、果下の平均はとりませんであつても、館山
市の成長に因合ふやうなもの、下エに、掲げた次第でござ
います。

前各号に掲げるもの以外、契約でございますが、具体的に
ものは見当りませんが大體一から五まで、向に現在の館山市
の状況では入つておると思います。いわゆる条例の性質上
こつち、大に下金額でも、契約した場合に議会の比附さ
んの同意を経る。こつち、大に点でございます。

議長(鴻貫壮作君)議案第八号討論有畧原案通り可決いたす
ますに御異議ございませんか

(「異議ござい」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議ございと認めます
よゝゝ同案は原案通り決定いたすに
休憩いたす

午後二時。・分休憩

午後二時二〇分再開

議長(鴻貫壮作君)休憩前に引続々議下開きます

日程第一四議案第八号

(書 記 朗 読)

議案第八号 昭和十六年度特別会計休養施設入支出追加予算

商工水産課長(羽山房雄君)議案第八三号について御説明申上げます。

お出のう今回至管費におきまして六十八万七千二百円の追加

にお頼い々わけでございます。内訳といつて

費におきまして不足分として一万円計といつて

次に取戻手当におきまして特殊勤務手当これは賄費

に具合う先ほど議決いたしました。特殊勤務手当三人

分へ一月二十三百万円の七ヶ月分四万八千三百円下計といつて

また賃金におきまして八万五百万円の追加は同様に

賄費に具合う賃金増額下お頼いするわけです。一人当

り二千三百円七ヶ月分五人分下計といつて臨時

雇い五人分の賃金追加分下お頼い々わけです。

次に消耗品費におきましてスリッパその他の一般の消耗器

材費として二十万九千円計といつて燃料費にお

きまして二十四万九千四百円これは当初に賦課の関係で

更積りいづるに将来不足とおもわれる分を
計上しなれけとございます。通信運搬費のうち電話料
は当初七千円更だみするも、一月より大体一万三千円
使用する理でござります。五ヶ月分不足いたします
ので一十三千円の五ヶ月分六万五千円お預かりする
修繕費に於いて三万月分は障子の張替その他備品等の
修繕料にござります。補償金及び補填金に於ても新し
い節でござります。五千月計より、宿泊客
の靴その他盗難等がある場合の補填金に当るべく、こ
ういふことを計上しなれけとございます。

又、合計六十八万七千二百円、これの賸余といつて
歳入におまして本年度第三回目の繰越し五十七万五千
二百円、繰越し合計百四十三万八千六百円とござります。
それら雑収入におまして職員、購買の徴収金とい

ろーろーて一人二千円。割合で八人分セノ月分十二万二千
円下計といろーろーで、合計六十八万七千二百円、よろ
しく御審議しお願いいたします。

○一々番(志村信作君)今回、追加予算はこれからの経費ですが、あ
るいは今まで全費が足りなか、た今下含んでおろのですが、

○高工水産課長(羽山彦雄君)今度の不足分下見込んでございます。

○一々番(志村信作君)鳩山君の追加予算は昨年も大分追加した
のでござりまするが昨年も足りなくて借金していろ

いろ品物下買、たという状態でありまして、たが今度でちよ
うとーとえなわけですが、あるいは残っているのですが、

または幾分が借金してあるのござりまするが、あとセノ月
分みるということになると半年分以上の予算下今組む
ということはどういうわけか、お答え願いたいと思ひます。

○高工水産課長(羽山彦雄君)当初予算におろろーて宿泊、その

他の収入売上より昨年の実績の一一・%みて予算下組
んだのでございませう。その一一%の範囲におさまります
べての金額です。そのうち予定でありまして、今回第二回
目の追加として第一回は繰越金八十六万二千八百余円、第一
回の追加の財源にいらして、必要金額よりいらして、
残る現在までその後繰越分の残り分、今回計上したわけ
でございませう。従いまして繰越しはこれで全部終ること
にございませう。

○七番(志村信作君)　そういらして、昨年は百七十万位赤字と
え金で返してあります。昨年の繰越しが八十六万二千
八百六十円でありながら、昨年の利益はこれででたというこ
とにございませう。

・商工水産課長(羽山孝雄君)　昨年度の決算は終つております。せんが
一、決算前に繰越した生じまして、それで財源に充てられ

けです

議長(鴻貫壮作君) 議案第八号討論省署原案通り可決いたす
ますに御異議ございせんか

(異議ございと呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君) 御異議ございと認めます
よ、て同案は原案通り決定いたす

議長(鴻貫壮作君) 日程第一五議案第八号の上程いたす

(書 記 朗 読)

議案第八号 昭和三六年度特別会計国民健康保険支入支出追加予算
。保険課長(神作啓次郎君)より御説明いたす

役所費で三十八万九千五百円お頼いいたす。内訳は
九節、賃金二万二千円、これ今回国民皆保険にござ
いていろいろ事務機構と同時に今まで使っておいて被

保険者台帳と給付台帳が古くびびりて非常に使用に耐
えられない状況でございます。て今回これ下契機に新しいものに
変えようと思っております。臨時用人約延べ六〇人程度下計エ
い、てわけでございます。一、節消耗品費二万五千円
これは文具費の一万円と法規追録その他下含めたのでご
さいます。印刷製本費の十二万九千五百円は先ほど申
しエがまゝに給付台帳、用紙と被保険者台帳の印刷
用紙の二十万枚と事業の概況書督促状その他印刷
刷代を、に計エい、てわけでございます。備品費
の二十一万三千円これも同じくこれに必要な給付台帳あ
るいは被保険者台帳のバイニグーそれ下入れる書庫三
個分下お願いい、て。諸支出金で二十六万八百万
これは千葉県国民健康保険団体連合会安房支部えの
負担金でございます。以上支出六十五万三百円お願いい

いなければいけません。これらの賦課は入るに過ぎない

ます前年度の繰越し金で充ちたいと思います。

・三四番（飯田義男君）二十六万八千円の負担金のことなんです

が国保の団体安房支部というのはどうなっているか、大体

負担金で追加なんです。しかも多額に達するということが

どうして必要なのか、各町村の負担区分というものも

御説明願います。

保険課長（神作格次郎君）安房支部の負担金は特別に今回お

願いなければいけません。これは要するに県下連合

会には各支部で設置してあるものでございまして、この支部

に対して安房郡の歯科医師会が七月の総辞退で契機

に国民健康保険法の一四条に入閣するのには同意し

得なければいけないという法文があるわけでございます。

そこで三五年度はこの補てつをするのには保険者の同意

下得て実施下さいたわけでございますが今回この法文によつて医師会は一筆やっただけけれども支入面が減額してやらないかうこの同意下より消してくれということ下安房医師会が申しでたわけでございます　あやうなわけでこの同意下得て補てつて実施するためその研究費として安房支部に百万円何と心配配してもらいたい　こういう結果に今日す、たわけでございます　その間にはいろいろ私から使前通り三五年度に同意下得て一つお願いしたいということは再三足下運んだわけでございますがどうしても法文に盲点があるのぞこの同意を^{変え}たい、そうして自由診療をやってもういたい　こういうことになつたわけですれについて安房郡の町村長さんとも皆保険の今日になつて歯科医師会がそれ下返とするということは非常に被保険者に^{迷惑}のあつることであつし、あつてはまた

国庫の補助の対象にも相当の支障があるのではあるを得ず
 同意を得ようということである。安房郡の町村長としては同
 意を得てやら。その同意のために協力して欲しい。やろう。
 こういうことで当市としても郡をやるのに館山市をやらない
 ということではまいりてまずい結果である。被保険者に迷
 惑をわけてはいかぬ。かうということと同じ歩調で進みたい
 ということである。今回これをお願ひして欲しい。

○二四番 飯田義男君 ちよつと説明がわかりにくか、たのです。が
 団体に対して二十六万です。だけれども、実際にこの金
 は、歯科医師会に寄付。ような形である。ということなん
 ですか。

保険課長 神作 啓次郎君 その通りでございます。

○二四番 飯田 義男君 そうしますと、歯科医師会はこれと返上
 する。ためにこの金。もういはいという結果になるのですか。

・保険課長神作啓次郎君　ぐず、ぐずということは適当であるかど
うのわへりませ人が同意を得なければならぬために研究
費としてお頼いしだい、これは補てつ下やるのには全国
でもこの法文によつて歯科医師会がそうしたこと下被保
険者に對して話して合下申してゐるところがあるのが果
自体としては補てつ下実施しろということ下勧めておりな
れう事実問題には一四条の法に盲点があるため、これ
に對しては何ともいえない、こういうことで一応お頼いし
たわけでございます

・三四番（飯田義男君）大体様子はわへりました、が法の盲点とい
う問題も、これはいろいろな関係でござないと思つてゐるが
、一からその法は改正をする運動をしておりますか、
ないしは改正が行われる人でしようか、そればかりでない
とすう、うへは来年も南来年も、こういう状態が続くので

ははいかという懸念もあるのです。その点の一つ、し。も御説明によればこの金下齒科医師会にやれば一応今まで一服の受診者はやっていけるのだ。こういうことでござりますか。

保険課長(神作啓次郎君) 第一点の法の盲点は全国、保険課長会議で数回にわたりまた全国の議会でありとしても問題としてとりあげておられ、もちろん市町村会でも問題にして、おや、一日も早くこの法の改正をすべきだということである。陳情中ではございます。

第二点は今回協力金下げてくれ、但、今後は全般的に同意の形で齒科補てつはできる。こういう話になります。

三 四 五 (飯田義男君) わりきり、この運動をしていって、なるぞうです。少なくとも来年の予算編成期までには

見通しはつきりですか。

・保陰課長(神作啓次郎君) 来年度の予算のことも先般全国の市町村 全国予算編成同盟会という会下東京都の砂防会館でやりまし、それがこれは当然法の盲点ですわう。すみやうにということと下お願ひしてあります。厚生省當局として果して三々年度へうミれが削除でまゐるかどうかということは私申しかねます。すば一日も早く削除すべきだといふ運動下起してあります。

・二四番(飯田義男君) それでは来年度の予算はさういふことのさいようにお望みあり難いべいと思ひます。

・二五番(鳩田繁君) ちやうどお聞えーべいのです。が齒科医の方はほかに治療は何でもなくて補てつべければもうかうぬかう補てつべければ同意下ーはいというふうなでまゐつてす

○保険課長神作啓次郎君　これは補てつが大半でございます。

二五番奥田　策君　それでは変なやり方ですけれどもし

如入者の利益下をまゝして万やむを得ないと思ひますか

もちろん法の改正に重点を置いてや、てもらわなくては

いけません。もし法の果年度も改正にならぬというよ

うな場合にはまゝという手でも、てまゝというですが

まゝ食いとめなことができますか

○保険課長神作啓次郎君　今年度限りは解釈してよろしいと

思ひます。

○三五番(里)川佐太郎君　今の問題ですけれども医師会の方には

どういふふうにしてや、たのか百万圓割りでやるのか件

数に依りてやるのか

○保険課長(神作啓次郎君)　これは百万という金額に對して

て東京郡の市町村と市の被保険者の総額で割りまして

被保険者一人當りにしてそれ〴〵各市町村とも接分いたす

了——

三五番(豊)川佐太郎君(百万円のものトどう接分するかと)という問題
です 医者の方、

市善(田村利男君)齒科医師会の方に一本にあげてわけです

個別に分けるのでよく研究費に使つてゐるでございす

議長鴻貴壮作君(議案第八四号討論省界原案通り決定いたす)
了すこと、御異議あるいすせんか

(異議なし)と呼び着あり

議長鴻貴壮作君(御異議なし)と認め了す

よ、て同業は原案通り決定いたす——了す

議長鴻貴壮作君(日程第一大議案第八五号ト工程いたす)

(書記 朗読)

議案第八五号 昭和三十六年度篠山市一般会計スルオシセ追加更正予算

。総務課長山口 実 君 オシセのオシセ御説明申一スルマシテ、

市役所費といフ一マシテ百五十三万五千円お願いしよう
とするものでございマシテ、 その内訳は需要費といフ一

マシテ二五節常品費で電動加算機十万五千円 今までも

に保険課で使つてゐるものでございマシテ、 性態が非常

に多い、 事務効率に便利なわけにございマシテ、 この際十

万五千円で税務課を理会計ミウに、 計算事務の多い課

で適合しようとするものでございマシテ、

次に車用自動車、 購入費百三十三万円 今回予算中議決願

いマシテ、 バリニスガロリア六〇年型下処分いマシテ、

大ニ年型、 ガロリア下購へしようとするものでございマシテ、

その車は百十五万五千円でございマシテ、 バリニラーバ十七

万五千円、 それ下合セマシテ百三十三万円とナ、 二あるわけ

サでございします 諸費といつて十万円お願いい
つてございませ 研修費、負担金としてつて三万円お願いい
つてございませ 当初予算で事務研修費として二万五
千円計上いたつてございませが今年は税法の改正 とういふた
点が多くございましてすでに事務研修費を全部使
果つてございませでございまして更に三万円計上いたつてございませ
諸費といつてつて委託料七万円お願いいつてございませ
これは女子職員、厚生費として一人百円ヤの人分を計上
いたつてございませ

三款消防費といつてつて十二万お願いいつてございませ
需用費の消耗品費に一万九千五百円 これは消防法
の改正によつて今回市内の五〇人以上の従業員を要
する あつたは五〇名以上人間の集まる場所には防火管理
者不足をなくするはならない、とういう法律がございませので

これらの法律は非常に難解のため、一応テキストを購入
入いまして、教育として使うものでございます。

次に三節の負担金補助及び交付金二万三千五百円、これは
は全国都市消防長会議に加入して、その関係で計と
してのことでございます。三、消防団費で七万七千円

各分団の車輛の車検、また緊急出動によつて生じた車
の破損、折こい、破もの、下修理するため、現在、予算
残額下みて不足額を見込みまして、一、合計五、三、三、

建設課長新井重助君四款土木費について御説明申し上げます。

道路橋梁不費におきまして、九万七千五百円追加をお願い
するのですが、これは市良、戦後、売払い、三、三、代金で

市良の道路工事下長、三、三、メートルの工事請負費でござ
います。河川港湾費におきまして、三、三、節の負担金

補助及び交付金で三十万、追加、これは船形湊港の旧港の

いうふうなことで三戸増設するにとりしべ次第でござい
 ます。なお去年は二坪五合でございまして二種は八
 坪五合、しるし今年度から二種は九坪五合にふえま
 すのでまた最近の値より増設費用の予算をびく
 りましてござい、工事請負費といつて二百四
 十万円の追加でございます。これは工事請負費の
 ほか、井戸とかス施設、そういうものを入れまして二
 百四十万円、合計千四十万円とおります。
 施設費において二十万の追加でございしますがこれは国
 有地、昨年より五割強の値よりで坪千二百円の範囲
 内というところでございまして、これは計五万円、た
 だ費用におきまして臨時用人の必要がなか、たので三
 万二千円減額いたしまして、旅費におきましては現在
 までの実績からみまして一万五千円程度減つて差し

つめえないという目算をたつてまいるので減額いたして
る。その手数料でございす。建設に必要な手数料
をのびいます。負担金は公営住宅の協議会が千葉にござ
います。てその年間、会費でございます。

。庶務課長（親父貴貴君）教育費について御説明申し上げす。
今日、追加額が二百二十五万五千七百円でございす。が
委員会費におきまして給料が十五万円お願いたします。
これは年度当初におきまして臨時で雇っております。
大ニ等建築士の大工と本雇のいづれもございす。たため、費
目替とでございす。賃金と五万円更正してございす。
小学校費におきまして五十九万九千六百円追加でござ
います。職員給諸手当は神戸小学校の宮分校の
便で図書館の方で任用替えしてございす。でその費用
も図書館にも、て参ります。

需用費におよぼすに三十七万三百円の追加でございます
 すが八月から市でし尿汲取り車を購入いたしまして
 学校関係のし尿汲取み取、でもういますすために教育
 費関係へし尿汲取料の合計と全部更正いたしまして
 小学校費におよぼすに十八万五千円の更正でございます
 ます 修繕料三万円 器具修繕料でございます、これは
 は来年行われまして、東甲信越の放送大会のための
 費用と今度追加におよぼすに総額百二十万計といふ
 一、二、三、これは北条小学校の放送施設の修繕料で
 ございます、備品費におよぼすに五十二万八千円理科
 設備費で十万円、今句理振法による補助規定で決
 定いたしまして、その不足十万円でございます、
 今回指定されまして、小学校は小学校におよぼすに西小学
 校、東小学校、神戸小学校、豊房小学校の四校でございます

当初予算におまして五十万組んであるのです
さうに今回十万円追加したのであります。それ
ら視聴覚教育用器具費として四十万八千円は
今説明いたして放送教育のために本年度どうし
ても設置してあるわけは来年度の大会に発表が不可
能でございます。そのための器具でございます。北条小
学校で二十万八千円、那古小学校で二十万円、テレビ
デオテープレコーダー、そういうような放送教育に必要
な器具でございます。

管理費におまして工事情員費三十二万円、放送室
整備工事費として五万円、(北条小学校の)放送室整備費で
ございます。電美配線工事費で十二万円、北条小学校十
万円、那古小学校二万円でございます。給水施設工事費
として十五万円、これは西小学校が九万円、畑小学校が六万円

中学校費におよぶて十二万七千円の追加、備品費で二十四万二千円、これは理科施設費として五万円、やけり、図書補助、指定校として今回は一中が指定され、一中は第二回目であるための追加である、視聴覚教育器具費として三十三万二千円、これは二中の放送器具の購入費である、管理費は貸金として三万円更正、これは先ほど説明したところ、委員会へ更正したわけである、工事請負費で五万円、二中へ放送室の整備工事費として計したわけである、す

高等学費におよぶて百十九万三千五百円下計といふ、一、備品費、図書購入費といふ、九万一千円、今回、図書館法に基く補助が、館山高校に内示があり、その半額、四万五千五百円、補助金である、

市費負担の四万五千五百円を当初予算で計上しております。教材費、その他更正して購入費に充てます。視聴覚教育用器具費として二十一万一千円を計上しております。来年度の放送教育の指定とあります。学校は小学校におきまして北条小、那古小、中学で二中、高等学校で館山高校、幼稚園で北条幼稚園、この五校でござります。管轄費におきまして九十四万四千円を計上しております。又工事請負費で電気配線工事費として一万九千円、これは放送教育のための配線工事費でござります。それほか商品標本室、商品実験室新築工事費として九十万五千円計上しております。これは昨年より続いております。国庫補助の対象にござります。今因工事を施行しようというものでござります。二五坪で単価三万七千円を算定しております。

幼稚園費におきまして備品費で六万円計上いたしております。これは北条幼稚園のテレビの購入費でございいたします。

公民館費で七万二千三百円 需用費の六万八千五百円 これ
は本年度那古の修式館が市に寄付されましたので
それと那古船形公民館として使った使用してあります
すがその運営費下当初予算に計上していませんのでこの
で今回そのための費用下ミ、にそれ——計上したわけだ
でございます。 管理費で一万四千五百円 建物修繕料とし
てこれら修式館の修繕料でございいたします。

婦人会館費と修繕料として二十万円計上いたしておりますが
これは婦人会館の置習との修繕料不足分でございいたします。
青年学級費で六万円 これは今回青年学級の国庫補
助金に決定いたしております。初予算におきましては八万円
計上してあるものでございいたしますが十四万円に決定いたしま

したのでその不足額の六万円ト計上したわけでございます
ます 教養費として二万円 備品費で三万五千元
シミニ一台と毛糸編機一台ト予定してあります

管理費で五千元計上いたすわけがこれは西岬青年
学級への配線の不備によるところの工事費でございます
図書館費で九万一千円ト計上いたすわけがこれは先
ほど小学校費で説明いたした州の宮分校の便下
図書館にもって参りましたのでそのための所要人件費
トミ、ト計上したわけでございます

社会教育費で五万円 今回県補助金というところて今
年、館山市に労働文化講座の補助金八五万円決定いた
すのでそのために所要の経費ト計上したわけござい
ます 教養費として二万円 印刷製本費で一万円
備料及び損料で二万円 これは講習生の見学用バス借

と料でございます。

体育費が七万七千七百円更正いたるが消耗品費が三
万円、これは体育大会の消耗品が不足いたるが賞品
代として計上いたる。自動車備上料三万円更正。備
品費が七万七千七百円更正いたるがこの備品費は
ボールの用木器具として国有財産の振下り予定して組
込であるのでございます。この寄附は航空隊の建物の中
にござります。航空隊と協議いたるが、この器具は
航空隊の方で大蔵省から所管管轄之下してもらうこと
に、その費用は、この更正したわけにござ
います。

・福祉事務所長（長谷川 玄治 君）社会及び労働福祉委員の福祉事務所
関係について申しあげます。

今回私どもの追加額は二百四十四万九千五百六十四円、追加

でございます。そのおもなものは国庫補助の内定に伴う
予算措置でございます。内訳を申しますと保育
所費におきまして二百四万九千五百六十円計といつた
これは昭形保育園の新設にかゝつて国及び県の補助金
百五十万円の内定といつたもので計といつたもので、昭形
地区に従来の東京都の児童学園に付属するところの保
育園でございます。これは三十七年度中に竣工という
ことになつておりますので教育委員会側と折衝の上保育
所として公立のものとして設ける。そうして昭形地区の児童の
健全育成をみる。こういうことにござりますので、その工
事費として二百四万六千五百六十円坪数は五五坪でござ
います。第一年度は六十名定員で三十七年一と
それ以後何人かの増設増員を行いたい。こういう考へ方で
ございますが当初は五五坪で六十名の定員で始めたいと

思います。その敷地も借りまして、借料として一万七千円、手数料三千円、燃料費の更正はその賦課の一部に充てられ、更正いたしました。

八項福祉事業費所費として、それら追加更正下してあります。追加下いたすものは、報償費として一万八千円、これは嘱医と申しまして、開業医と私の方にお預けして生活保護にかかっている人たちの診査下していただくわけでございます。国、県、補助の対象にござります。各委員の手書きも増額させてありますので、一月一日から三千円増額下いたす。こう考へたものでございます。次の三万円は現在の支出予定のうちにござります。不足額と思われ、その下計としたものでございます。食糧費として一万円計いたしました。これは下月々に支払います。私どもの方は六百五十円、食糧費では間に合いませんので、大体千五

百月の範囲内で諸会議あるいは却外者の接待、そうい
うもの下い、う、たいと思ひ、て今回特、一、万円計、えい、う、
へも、つ、で、お、い、う、す、他、の、福祉、事業、所、費、の、各、節、の、更、正
は、そ、れ、に、追、加、い、う、す、す、賦、課、と、し、て、更、正、し、た、も、の、で、お
い、う、す、

九、項、の、福祉、事業、諸、費、と、し、て、四十、万、計、えい、う、す、た、こ、の、
うち、旅、費、手、当、そ、れ、に、二、千、月、削、り、う、す、て、二、千、月、増、額、
い、う、す、た、た、教、老、会、に、従、事、す、る、雇、員、の、手、当、を、お、い、う、す、
本、年、は、日、曜、の、間、催、さ、る、多、く、う、す、た、め、に、予、算、支、出、項、目、
を、更、更、す、る、こ、う、い、う、関、係、を、お、い、う、す、需、用、費、で、四
十、万、計、えい、う、す、た、そ、れ、に、お、け、の、こ、と、く、心、配、事、相、談、
所、設、置、補、助、と、し、て、福祉、協、議、会、特、別、補、助、と、し、て、二、十、万
心、配、事、相、談、所、は、今、回、果、さ、い、国、の、補、助、対、象、に、う、り、う、す、て
十、二、万、の、指、令、を、お、い、う、す、た、め、に、そ、れ、に、一、万、月、を、加、え、う、す、て、二

十万市の社会福祉協議会に委託して開設していただく、
 こう考えておりました。事実としては福祉協議会におきま
 して昨年の九月からずっと開催をみておられるわけですが今
 国正判に国へ対象となる心配事相談所、こういうことに切り
 換えるための費用をいただきます。それから社会福祉協議
 会へ特別補助金二十万ですがこれは御承知かと思っておりますが
 館山老人ホームが三九名の定員のところ新たに増築したい
 ところとセオリーの定員にいたす計画をし、工事を実施し
 たいわけでございます。その結果国の補助金が百九丁三
 万円弱に減りました。これによって工事費が約四百五十円か、って
 おります。そのため特に市から助成をいただくまい、
 こう陳情されたのであります。各市の会計規定から申
 しますと直接市が老人ホームに補助をするというよりは
 好ましくないように思われます。で老人ホーム設置の

とまの全週　そういうものかう考えまして福祉協議会へ
から補助下さいまして福祉協議会から老人ホームに助成
下さいたいべく　こういうふうな形で行うまいかと考へまして
併せて十万円計としていただいております

一、項の国民年金事務取扱費として旅費三万四千元、文
具費五千円計として、取扱費は保険料の徴収に
つきますので、現状納税組合等のようなものもありまして
ありますので、自然各部落等に出張徴収というか、こうに
なるわけでございます。この出張徴収大体一回やりますと
六千円位かかるわけですが、市民の便宜のためにも、
下駄目出ているわけでございます。その費用と申しま
す、取扱費の不足額三万四千元、それかう消耗品費五
千円というのは若干のもの、下駄目でございます。
その財源として、貸金で三万九千元、これは現在使つてお

る臨時用人のやめども欠員補充として行くて何とか手配した
下合せたぬめのものでもございします

厚生課長伊藤幸太郎君等々款の保健衛生委員につまして
申しあげます

総額はいさ—として四十五万余の追加でございします
隔離病舎費におまして九万四千六百円これは当初
予定してございしますらん—と患者輸送費の必要を委員
の追加でございします

一口頃の清掃費におまして三十八万一千円の追加計上で
ございします このうち特に御説明申しをかりたいと思ひ
ますのは二箇節の諸料及び損料二十六万円でございしま
す これは御承知の通り正裁のし尿処理場のございま
す間。暫定措置といふ—として尿の貯溜槽下考
えをわけてございしますが大まかに個人所有の畑等に

而もさうしての希望協力者もあるようではございますが、
それらの方々に協力費というところである程度の借料
という点とで協力者に対してさうして市費もろさうして
礼下差さうするということより意味合いで考えて参ります。
その概算は二十万と考へ、実地は、さうするわけでは
ありません。さうして三節の補償金及び補填金の五万では
ありません。これは今申さうするに暫定措置、貯溜費
係のし尿よりする田畑の耕作物災害の補償金と予定
しているところ、個人、耕作物の補償と市が責任をもつてい
ないというわけではございます。以上それぞれ、節にお
きいて不足と見とみさうして合計三十三万一千円の需用費
の追加をお願いしたいというわけではございます。
。農産統計課長吉田耕一君、考査業務費につらさうして御説明
申しあげます。

今回お頼いしやうとするものは四百十六万三千円でございますが、そのうち農林関係につきましては百十六万三千円お頼いしやうとするものでございます。

農業委員会、職員給は事務職員給の不足額下計といつて、次第でございます。

次の農林費のうち病虫害防除費にしまして四万八千二百円お頼いしやうとするものであります。これはミカン害虫防除するビニールの天幕も購入いたしまして、この防除につとめたい、かように考えなければなりません。大体本市におましては、一〇張程度のビニール天幕を購入いたします。この貸付による防除につきましては、かように考えます。大体一張九千六百四十円でございますが、この二分の一、果樹助成するにとり、てあるわけでございます。それにも果樹下の必要数量下果樹一括購入いたしまして

市町村へと該当数下配付する契約になつております
ので二分の一は必要額四万二千五百円下お願ひしようとする
ものでございます

次に園芸振興費でございますが委託料で三十五万円で
お願ひしております。いづく新市町村振興計画にも盛り入れ
ておりますように従来球根関係の花弁につきましては
大体新潟県へ輸入にまかされておりましたのでござ
います。が昨年来実地へ視察に行きまして適地地という
見通しもつておりますので補助下設けするてや、という
まいという考え下も、ためけでございます。大體アイ
リスにおきまして二分五厘程度反当六万円の程度の委託料
その二分の一は県の委託助成 キンセニカにつきましては一
反五畝程度下見込みます。これ九万円の程度下助成
いたすまい。二分の一も同様に県の助成下仰ぐ考へ

ございます。次にチゴも同じように進めたい。この
 ように考えて大体三町五反程度下見之人で反当四千
 円下助成しこの二分の一をやけり果の助成下待つこ
 う考えております。果との話し合いもついてある現状で
 ございます。従つて合計三十五万月下必要とする
 わけでこの二分の一十七万五千月これだけ果のウ入ると
 考えて今回三十五万月お願ひいたしております。
 次に土地改良費でございます。ろくろ畑作振興事
 業といつて三つて永年検討下加之をあるわけですが
 なか／＼その進行度合も伸びております。せんが本年度
 におきまして畑作振興の一助として水滸調査下実施
 いたしてございます。考えてあるわけをございます。これに
 つきまして果の指導等によりまして果の助成下得
 ます。それに市費下投じまして調査いたして、この

ように考え今回調査委託料といつて――してお願いしようとするものでございます。土地改良費につきましては総額六十七万円でお願いしよう。そのおもなものは――いさ申して――委託料で六十一万六千円。この内訳でございますが地元の電探調査事業の委託に――して三万円程度それに基いて鑿泉事業大體――メートル程度で用途といつて――してまた鑿泉事業後――して――して用水事業。こうして三つの事業の委託に――して――して調査と実施の――といひ、かように考へて――して今回六十一万六千円をお願いしよう。わけのいふいます。その他の費用についてはこの鑿泉調査と実施の――して――して必要の経費を計しよう。――して次第でございます。

次の一口款の統計調査費でございますが六万四千円の追

如下に頼いしやうとするものでござります。その内訳は
 資料内調査員の報酬一万円、これは原則として五〇世
 帯前後下一調査区として調査区下設定してあるわけで
 ござります。そのうち五ヶ所程度の調査区においては九
 〇から百世帯を越える調査区もあるわけでござります。
 これもやはり原則的に五〇戸程度に二つに調査区下分け
 て調査の定礎を下期してゆきたい。このように考えまして
 果の了解も得られまして、それで五調査区の調査員に対す
 る報酬もこの計算を従来七百五十円でございまして、が
 果のこの調査員報酬が単価の値より下になりまして、八
 百五十円とになりましてその差額をこの計算にいたしました。
 賃金の五万四千円でござります。いろいろ商品調査等
 の集計事務などござりますので臨時にお頼いして
 集計事務に当たって参りたい。かように考えまして不足額

す計エいづゝゝゝ。以エでございます。

商工水産課長(吉田耕一君)八項の概充費におきまして今回
三百万の追加をお願いいたす。これは負担金補助
及び交付金において国定公園事業に伴う地元負担といは
しき。てお願いしてゆけでございます。幅六メートル
五〇の道路一七メートルもろゝゝて大体経費事
業といつゝゝて今年度果へ施行する分は九百万で
ございます。その三分の一、三百万円を地元負担として
計上してゆけでございます。本年度は大体七〇メート
ルは施行する予定でございます。施行予定地でござい
ます。鉾切神社の横、樫山荘の南面から渡左間の果道
の間一七メートルが測量に入っております。本年度は
一二月頃着工いたす。て明年三月完成の見込みでござ
います。全体の全費は約二十万でございます。よろしく

お願いいたします。

。総務課長（山口 実 君）九款財産費について御説明申し上げ
ます。

財産費として百三十六万六千円をお願いいたします。二八
節施設費百三十万は、土地を購入しようとするのでござ
います。が富士タイゼルの東方、湊の水田に面する土地で
ござります。戦前には海星寮といつて、夏に夏季寮
がござつたのでござります。よく青年学級施設とい
つて、よくて、にある建物、市で購入したのでございま
す。その後戦争中住宅難のあり、この二棟の一、二坪
の家屋の中に戦災者が住居することになり、それでござ
います。その後、これらの住居者が撤去することになり、長
い間懸案となり、それでござります。従つて学校の方
から至急建物下処分してほしい、そこに新しい寮

。税務第三課長多田俊一君「諸夫お金のうち徴税費について申し
 上ります」

備品費といつて三万一千円これは当初予算にお
 まして徴収用自転車といつて三台分二万四千
 円計といつて今回新スーパーカーバ下購入といつ
 て機械力下發揮といつてといふものでござります
 なお賠償及び償還金一万円これは前年度におりる
 不足分をいふす

大項過年度支出金ニ九節賠償及び償還金といつ
 て五万円これは過年度分におつてとこの
 助成還付金をいふす 主として法人税の還付金で
 ござります 以上でございます

。総務課長(山口 実)「支出今回追加額千五百五十万四千
 三百六十円支出合計四億二千二百四万六千五百五十円

次に右へに移ります

公営企業及び財産収入として百二十五万一千円、運
物売却代金、田舎舎五十万一千円計三十一万、
次に物売却代金として七十五万、ビア売却代金二万
円、那古小學校へピアノでござります、プリンスグロリア
の売却金六十八万、貨物自動車売却代金五万、円は現
在、厚生課の所管へ古い自動車、処分のもうでござります
す

七款、国庫支出金で二百十九万七千五百七十円計三十一万
一、三、一、八、児童福祉施設等設備費負担金の七十万
円は、船形保育園新設負担金でござります、三、節、産
業教育施設負担金十九万四千円でござります、が、高
等学校産業教育施設負担金として、三、節、高の、商品
課本室でござります、これに対する補助金坪当たり二万

九千百円ニハ坪ニ対スルニ分の一ト計上したもので
 ございます。 四節学校図書館整備費負担金四
 万五千五百円は、館高図書館ト参ル、国库補助の
 二分の一トモト計上いたす。

ニ項、国库補助金トフマシテ百二十四万五千百二十
 円計上いたす。 公営住宅建設補助金といッ
 マシテ当初予算で一六〇の補助金ト三百十八万三千
 円予定しておゐたのでございすすが、今回四百七万
 千円ト決定しマシたのでその差額八十九万ト計上
 いたす。 教育費補助金ニ十三万五千百二十円
 青年学級補助金 理科教育補助金 海外視察補
 助金 〆〆〆で説明の通り、それ〆〆の費用に
 対スル国ハ補助金でございす。 消防補助金十二
 万は消防施設補助金といマシマシテ当初予算に十

万圓見込人でおつたのでございすすが、単価の改正によ
りまして倍額以上増加されたのでございすすが、その
差額十二万圓計といつて、国库委託金一万
二千九百七十圓、これは統計調査委託金でございすす
八款、果実お金九十万九百圓について申し上げます
児童福祉施設負担金三十五万圓は市立船形保育園新
設補助金百四十万圓の四分の一計といつて、
果補助金でございすすが、三十六万八千九百圓お願
い、これは土地改良事業費補助金、必配事相
養所施設補助金、労働文化講座補助金、これは才出
に説明いたす、果の補助金でございすす
果委託金十八万二千圓は統計調査委託金、園芸振興
委託金、これらの合計額をお説明のあつたものでござい
ます

次に寄付金七十五万円見込みです。土木費に於ては
 して十五万円 船形港地見寄付金十五万円 教育費
 寄付金六十万円で見込みです。 館山高校商品標本室
 建築費で見込みです。 総額九十二万五千円 このうち
 P T A 六十万円寄付するので計一億三千四百四十
 次に繰越金について申しあげます。 今回千二十六万四千
 六百七十円計一億三千四百四十万円で繰越金の計一額は
 二千八百六十五万五千円です。これで前年度の繰越金を予
 算化されない額は八十五万八千七百三十九円とになります。
 雑収入の過年度収入十四万二千円は住所不定の生活保護
 関係で市でつかえられ、下果の配付され、繰越金
 になります。

次に今回の追加額千五百五十万四千三百六十円 収入合計
 四億二千二百四十六万五千五百五十円 収入と差引を要令

でございます。

・議長（鴻貫壮作君）暫時休憩いたします。

午後三時五十分休憩

午後四時一十分再開

・議長（鴻貫壮作君）休憩前に引続き今議事を用います。

○三五番 脇田順一君（公営住宅の建設に關連して御質問いたします）

ます。

昨年も市営住宅下作りをいたしました。今回また引き続き住宅下作りをするわけであり、ますますバカンスの生活者などへの住宅難はこれによって緩和されていくと思っております。それから一段階下のいわゆる所得の低い層の者に対する住宅難についてはまだ残されておる問題であると思っております。もちろん当面はこれに対するお考えや構想をお持ちに

ありますのでござるだけ早く実地に行きたいと考え
ております。果年度ということはお下へしいのではな
いか。私どもの考え方としては二種の住宅には相当低額
者も入ることになるのでいうふうな考えでおります
がとりあ之下すぐ作らなくてはいけないというものは
数少ないのではないかと、この実態調査の上から判断す
るべきでおります。財政の許す限り御希望にお応え
する。こういう考えでござります。

○五 参(脇田 順一 君) 大いまいまの御説明に
困っていますというふうな御回答のようですが最近長
谷川君のところは敷せ帯進出されて困っていること
で御心配されているはずであります。それ下入れるわけ
にはいかないという返答で帰された話し下その人々
が聞いているのであります。先日も総務課長の話

の中へでてくる海星泰のあそびにも相当おる人で下
 あがたのおしやるのはおそらくたゞ入れておるという
 階層のもの下意味して一二世帯ということと下でそれ
 ておると思ひます。全然そういうものでござへる長屋
 のようなものぢやんと家賃下としてそうして安直な
 ものの望んでおるのです。そういう階層へ相当あり
 ますよ、彼らは入つておるところはどうやら入つておる
 けれども事實果へかへる危険だらうといわれり
 あるいはボスのようぢやないてあいておつても入れない
 ということと秘んでおる。もう少し詳細に御調査願
 つて早急に実務方下要望して質問下打ちります。
 福祉事務所長(長谷川 宏治 君) 回答之することとが変になるのも知
 れません。確かにそういう話にはござへる。私ども
 かう申へるが、すればあまりに幾ら税金下だしてゐる

とい、なみちと甘下であるというような点も考へ
られます。私どもの方で入れないということでもなく、あれ
は果の施設ですし、果をすでにとりこめすために退去
を指示しているわけでもありません。

今入、であるけれども、家賃をなくして入れない、こういう
者についてはそのまゝ、黙認の状況が続けてあります。が
新に入るといふことは絶対に許可しない、こう果の指
示があるわけで、私どもそれに従つてあります。一筆位
前にすでにでなければならぬというところで立退料
までもう、であるような方で最後に私どもの方に
またよく聞いてあります。市としてそういうサービス
をするということは承知してあります。すばいろう、経
過へら出られるか、なというところでございます。

二四 飯田義男君 農畜統計課長に質問いたします。畑

地灌溉の水渠調査でございますが、これは今までし
ればやっておりますようでございす。その成果について
御説明を願うと同時に、この水渠調査は大体どのような
な地区下どのような方法でまてどう活用していくかとい
うことについて將來の展望についてお答を願います。
。農林統計課長吉田耕一君）過去三年にわたりまして実施
いたしまして概況を申しあげます。

最初三四年度に実施いたしまして、地域は神戸の洲の
宮と布沼の境で、實際ポリリニグ下いたしまして、わけござ
います。予算等の関係から、わけて、貧弱なポリリ
ニグ調査にござりまして、結果といたしまして、失敗に終っ
ております。二年目に行いまして、布沼地区でございま
す。その方の権威者でございす。すところ、鈴木博
士の電探調査で、大体一七、八町歩を、実施いたしまして

その電探結果に基づきまして大体この付近が適当
かという結果に基いて而沼地区に指定いたしまして
そこを下ボーリングいたしましてお見します。その深
度は大体一四〇メートルを目途に実施いたしましたわけ
でございます。その結果表は届いておりましてご覧
います。持っております。大体可能性はあつたけれど現
在のこの位置では畑地灌溉にやろうかなと今な水量
は認められない結果であつております。しかし六〇メー
トルには相当な水量があるけれどもその程度で幾
く水をとるといふゆゑ付近の井戸水渾濁に弊害を伴
うというところからいまして畑地灌溉には適当でない
という結果に終つてあるのが現状でございます。
本年度あそこ付近の河川の流水状況と果の耕地課
から見ていまして本年度のこの陥没でございます。

一番のところが、九月の中旬最後の三日間の流水調査と
 実測の間にずれがあります。その結果にあつては
 と二〇町歩程度の必要水量はあるという結果であつて
 であるわけでございます。大い流水だけに頼るという
 ことでは、ある程度の地下水も合せてとりまして、国
 果の助成をうけて三年度頃に十合畑の灌漑のことで
 るよう実地する計画をもつて進んで参りたい。この
 ように現在果の方とも打合せをいたしまして進んである
 現状でございます。過去二年間にわたつて実地は、
 ところどころでは全部失敗に終つてある現状
 でございます。

○二四番(飯田義男君)そうしますと今度の予算の目標はど
 ういう方面でございますか。

農畜統計課長(吉田耕一君)本年年度の調査費でございますが大

昨年度実施いたして、一面沼の地域は西岬に参り
ます。果道の、一〇〇メートル位入、たところでの、い
たところ、で本年度実施しようとする地域は、それより
も、と下流の海に近、おといふところ、一、六、新定地と
い、て、進めております。お流水利用という
面と合せて、おそこにある小沼川という川が、一、冬、水量
が、あ、そう、で、い、て、早天、九月中旬、にお、ま
しても、三〇町歩程度の畑地灌漑には、ま、い、得る水量
が、あ、て、ある、という、現況も、お、い、して、お、ま、す、で、本
年度予定してあります。

〇三四 菱飯田義男 君 次にベキコームカーについて、お、い、い、て、
ます。

大田市は、学校等、下、や、て、お、ま、す、が、一、台、で、十、分、間、に、合
います、と、の、程度、現在、運行、して、ある、か、その、状況、下

に答へ願ひたい。

○厚生課長(伊藤幸太郎君)現在一台の車で約三〇ヶ所かへり、三十ヶ所公衆便所その他、公共施設の汲取り下や、ておゝます。大体過去一ヶ月間、様子下みまゝに場合にこの程度ならば一台で当分まかひえるのではないかという風通し下つておゝります。将来の問題はいろいろございまして、ようけれども現状におまゝでは当分の間一台にで公共施設のもの下汲みと、て処分する方針で進みたい。こゝういふふうに考へておゝります。

○三五番(里川佐太郎君)市長にお尋ねいたします。

し尿処理問題ですが、こゝに土地使用料二十六万支出するやうに、ておゝります。し尿処理場この問題は、重要緊急下果する問題であらうと思ひます。が、それにつまづいて各週並みにお見通しについて御説明下

願います。

・市長(田村利男君) この問題につきましては市として最も熱心なや・ておるわけでございますが見過—といつてしまへば市はあくまでこれやるまでである考え下も、それです。 八いまま中なるみと申します、西岬地区並びに館山地区漁業会 あるいは長さんの連中が平砂浦吉田課長、い・た小沼川の下流に、場所があるかういふ下漁業会並びに沼地区の説得が大体でござうであらうといふことでござい、がうまい、たうぞ、ろに交える意思があるまいかといふようなことでござい、が市はそれと答へません、とにかくあんなおが市に協力して、候補地を見つけてくれるならば市はそれとすむといふことは市長直ちに返答でございせん、十分考慮します、から一生懸命土地の相対

通業組合 布沼の反対者 マス小沼川の川の氷というもの
の研究してもらいたい、必ずや、てみせると向うもい
・ておりますので今調査して頼いしつていり過程でい
います 近く返事がくる人でないかと思ひますすがそれ
までを、お待ち願ひしたいと思います。

三五番(里)川佐太郎君 たいいますの御説明で了解いたす
問題が非常に重要でありかつ緊急を要する問題だ
けに市も万全下期して一日も早くやられんことと希望
いたします。

九番(吉田)勇治郎君 教育長さんにお尋ねいたします。

今度の教育予算で視聴覚教育ということに非常に
予算がでてゐるのですがこの視聴覚教育そのものは
いかにその範囲の器具器材というものの具備すべからば
本来のマス各市内の視聴覚教育に対する施設、状

況下お伺いしたいと思ひます

教育長（工藤和平君）今視聴覚教育というお話でありました。私ども放送教育というのであります。放送教育と視聴覚教育の違いは文字通りラジオテレビを中心とした教材のあり方でございます。視聴覚は更にはスライド幻燈そういうものも含めまして、もとより、この範囲の教材、こういうことでございます。そこで今、国、東、甲、信、越放送教育研究会というのはお話のよう、放送教育と視聴覚教育の二本まで一都八県、お持ちで研究の公開下、続けておるのでございます。館山市は千歳県が三七年度の開催地という指定下うけまして、関係で県の関係者が館山市が一参い、いろいろな条件が具備してある。ぜひうけてくれ、こういう懇請、うけ、わけ、でござい、ます。私ども考、え、ます。

の正直申しましてこれは黒板と白黒だけで研究公開のできることにやっていますんで施設がなければ発表はできません。そういうわけで実は二の足踏んだわけでもありませんが今日のテレビラジオの進歩といえます。普及されて考えますとそれだけの生活の切り離すことができない。こういう観点に立ちまして文部省も新しい教育課程に放送教育ないしは視聴覚教育下とり上げようというところから引まうけれども、それではいけません。あ、このう、い、分としては幼稚園小学校高等学校幼稚園から高等学校まで一貫した放送教育の理解を促すべく小学校だけでは二校割り当て、これ、こういうことであります。大規模視聴覚教育放送教育下ゆずかながらでも本市においてやっておる学校はこの機会に前進しようという

熱心な校長にいろいろ話し合ってもらって先ほど説明
申しあげましたように北条幼稚園那古小学校北条小
学校二中館山高校に選定したわけでございます
東東甲信越放送教育連盟会から指定というけ
て来年七月三日、四日館山市において公開するといふこと
でございます。そこで予算関係で最小限度備えつ
ける費用下ださせましてそれの計百二十万といたすわ
けでございます。なお現在いろいろ必要であります放
送室あるいは拡声機幻燈機等の施設が必要であり
ますけれどもとりあえずテレビの現有状況で調べま
すところ、那古小学校が一つ、北条小学校が親子で三台、
二中二台、北条幼稚園二台でございます。NHKで
貸してくいのび北条小学校が二台、二中、北条幼稚園お
の／＼一台ずつに今度予算が御審議をうけまして

ならばさらに二台ないし一台下加えまして各学校とも三台ないし四台のテレビ下備えてやりたい。こういうことでござります。

九条（吉田） 杉田 君。今の説明でよくわかりました。

要するに当面の問題としては千葉県が持ち回りで三十七年度番である。ゆえに放送教育視聴覚教育というもの、モデル校下選定された。こういう御説明である。と解釈され、この問題については当然必要欠くべからざる問題であらうと私は思うのであります。指定各学校ともある種の寄付下つりあるいは財源の捻出方に廃品回収下し。そういう方法でも、て及ぼすところによると、まゝりりにも放送教育と申しました。どうか。そういう方面に学校は力下入れておるや。よくないのであります。三十七年 千葉

果は當番に於て選定され、學校は充實してゐと残る
れば學校について今後當然設備が必要と思ひます、
それについて教育長さんは今後の進め方下どうお考えに
なつてゐますか。

・教育長(工藤和平君)この問題先ほど申してしまふように指
導要領にもするに抽出されておりますので各學校にあ
る程度施設していかゞければならぬというのと下感
じております。従つて將來予算とくらみ合せま
してこれを実現する期をいふてゐ

・議長(鴻貴壮作君)議案第一五号討論有る、原案通り決定
いたします、その御懸念はございませんか。

(異議 無し)と呼ぶ者あり)

・議長(鴻貴壮作君)御懸念了々と認めます、
よつて同案は原案通り決定いたします。

議長(鴻貫壮作君) 日程第一七議案第九号下と程いさうす

(書記朗読)

議案第九号 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例、副

定について

議長鴻貫壮作君 議案第九号討論省畧原案通り可決するに

御異議ございませんか、

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長鴻貫壮作君 御異議なしと認めます、

よって同案は原案通り決定いさうす、

議長鴻貫壮作君 日程一八伝染病隔離病舎組合議会議員の

選挙下議題といさうす、

去る九月二十六日付文付さうす、一八伝染病隔離病舎組合
合規約第六条の規定に基いて当市議会より六名の組合

議会議員下選挙することになつております。

これより組合議会の議員の選挙を行います。

おはつていただきます。選挙の方法は指名推選の方法に
よることになります。御異議ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議ありませんと認めます。

よつて選挙は指名推選と決します。

重ぬくおはつていただきます。指名の方法は議長におい
て指名することになります。と思ひます。これに御異議
ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御異議ありませんと認めます。

よつて議長において指名いただきます。石井孝君、鴻田
繁君、田中禄郎君、山口孝三君、山口康君、鴻貫壮

作、おはかりいさうです。以て夫人下伝、沐木病隔離病舎
組合議會議員へき進人と定めうすこと、御墨議ひふい
うせんか。

(「墨議」かと呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壮作君)御墨議「」と認めうす。
よって以上の通り決定いさうです。

議長(鴻貫壮作君)日程第一九議案第八六号「工程いさう
うす。

(書記朗読)

議案第八六号 土地の購入について

総務課長(山口寅君)議案第八六号について御説明申しあげ
うす。

同面下御覽願います。この斜線の部分、購入いさう

了すものでありす。購入しようとする土地の中、市有
建物に＝標記をいしてその建物の中に一七世帯約
五七人庶民住宅の形で居住してあります。一六この
建物に付随する建物、市で購入して、建て建物と
土地、市で管理しようとするものでございます。

購入先、島川徳一となり、てあります。これは豊昭学園
の校長でございまして、この先生が戦争までこの土地
に毎年旅泳に参る、たのでございます。校長先生もせ
いあの土地に昔のように入寮して建て、て海水浴、
た、。さういふ要望が毎年、。ろにあ、たのです。が
市といふ、。ても、。れらる住民、。追出すわけにいか
ず、。水、。間、。問題に悩んでゐる、。でございす。これ
の解決策といふ、。て、。市といふ、。ては
一六、。校、。方、。市、。で、。替、。地下、。幹、。旋、。する、。こ、。う、。い、。

へ形で交渉し進めてきたのでございます。代
替地の予定も決定いたして先だって豊林省のう
代替地の雇用許可が参ったのでございます。そこを一衣
交渉過程におけるこの土地の坪数二千百円強であり
ます。この程度、価格が適当だと思いついて百三十万
円でこの土地を購入しようとするものでございます。

一五番(鴻田 策君)御説明に参りますと、亀川さんで
すか。豊昭学園の校長さんだということとお聞きました。
が、その方の個人の所有になっておるんですか。信用で
買うのか、また法助にもそれはい、のか。

。総務課長(山口 実君)こゝに掲げましたのは台帳に登載さ
れてゐる代表者の名前。掲げたものは台帳に登載さ
されたものと法人ということもなく、私立学校でありま
す。で、校長先生の名義でも、この土地を購入した、

こういうことでございます。学校といつて、さうしてもこの名前で結構である。こういうことでございす。

二五番(鴻田 繁君) 十分考慮してや、ていふこと思ひます。

議長(鴻貴壮作君) 議案第八号 討論省畧 原案通り 決定
いすすに御異議ございせんか。

(異議無き) と呼ぶ者あり

議長(鴻貴壮作君) 御異議ございと認めます。

よって同案は原案通り決定いすす。

議長(鴻貴壮作君) 日程第二。議案第八号 下上程いすす。

(書記 朗読)

議案第八号 館山市公営住宅新設工事請負契約締結に

ついて

建設課長(新井重助君)議案第八七号について申し上げます。

本案は一種住宅ニテニ種バニ一戸計ニミ戸トナツてよります。
建てる位置は昨年度に引戻されまして大蔵省所管の土地
でございまして一応お下りの年度もつてございまして
で今回計としてございまして。昨年は四月の半ばに会計
検査委員が参りまして本年度は特に急いで仕事に
かゝるといふこととございまして。昨年もり今回早く
提案いたします。

入札は九月一六日 鶴山工業株式会社 計工務店 田辺工務
店 山崎工務店 宇山工業株式会社 富士土建株式会社
高橋工務店 関工務店 石井工務店 渡辺政男の二名
選定して入札いたしました。八百六十五万
円が最低でこの渡辺政男と契約したいというもので
ございまして。

。九番（吉田勇治郎君）この土地の松下ダの問題についてお
伺いしたいのですが当初予算に二白一十万組んで それ
から追加予算で九十八万組んであるというところ一戸当り
の土地はどの位みてやゝてふりますか これは区切つて
払い下つてしまつては行かないものですが それとも昨
年度建て、今年度建てるといふ計画性があつた場合
には手続がエというくの要費もかゝるだらう一括して
払い下つてしまひいものか その点下お伺ひいたします。
。建設課長新井重助君もろろん私どもは一括して購入した
いのですが公営住宅の規則からいへば一括して大々な集団
的公営住宅工事あるいは三ヘクタール以上の土地に建ち
かういふふうの計画に限りますと前もって買ふたのでござ
います。すべし戸ニの戸についてはその年度に限りという
ことになりておりますので毎年買ふということではござい

ます。それらの各家の坪数でございます。これが隣家
との間隔。そういう関係もございます。一戸当り四・三坪
下標準にや・ております。なおこの土地は約一〇〇坪
必要なんです。が、今同園賦のオハラ内本では、よりして
ことばわります。せんが、今月一ぱい、通知下です。ろうと
いうことと。それならば入札下急ぐからということと。急い
だわけでございます。

なおこの中に道路下縦横にとりまして、相当敷地下
とあるのでございます。一戸当り二・五坪程度でござい
ます。以てです。

九条（吉田勇治郎君）　そうしますと、当初の計画から三戸ふえ
て、そして九十八万の追加。当初の計画二百二十万とちよ
つとバラニスバといえないように思うので、すが一戸当りの
所要量下幾らかと相同にするわけですが、

建設部長新井重助君先ほど申し述べましたように払い下り
価格が坪数は三坪でございますが払い下り価格が
若干値上りしたために臨時時に金がかえった。こういうの
りでございます。なお本月一六日の価格、決定は勧業
銀行の参りをして決定いたしました。

二番（山本昇君）工事の請負で先ほど指名競争入札した一、二
者集めてヤ、バというお話しでございますが私もよくと
ころとよくすると建築の單価というものが公営住宅は低
いので業者がやりたくてもやれないというのと下しはし
ば聞くのでございます。そこで今回臨時国会にあつて
ても補正予算の提出の一つ、あれといつて公営住
宅の單価の引き上げというのと大きくうたわれまして
それ下廻りで周で審議してあるというのと下聞いて
おやつてございます。八百六十万というものがどう

い、なにと下合んで競らば単価下エグバものかや、なか
あるいは従来のも、でや、なか、その点下放まていへる、
ない。

・建設課長(新井重助君)これは毎年、ことごとくいまして三六
年度に取ります、建築基準額坪当りの単価、一種で二
万五千四百円程度、二種、場合は二万二千九百円程度
これが基本単価です、これはけとうていでる、
各方面下掘ります、これが資材に取ります、四割以上値
下り、大工その他に取ります、ても上、てお、ります、で坪
当り三万八千円ほどや、てあります。

・三四番飯田義男君契約の方法でいいます、が原則にの、
とら、た、特例にの、と、てや、てあるようにいいます、が
これは一口業者以外に希望者はなか、た、か、その点につ
いて傾向います。

建設課長新井重助君 指名者は館山市におります建築下
大才くやゝてある人下指名してございます。それで入札
いゝゝしててもとてむじやないけれども市営住宅はご
めん下さう味りない、さういう人が多いいので昨年あり
まゝで渡辺政雄、バー番、要の、で……

二四番(飯田義男君)結局やり手ではないということなんでしょう。
建設課長(新井重助君)理をまずまず、とあるのは野田市と鑑
南町の二つだけで館山市が三つめ、ほかの市町村はまず、と
いないで果て心配してある。二万二千円位の標準額で三
万二千円位のものはなかく契約が成りや、ないというのが
現状でござります。

議長(鴻貴壮作君)議案第一七号原案通り可決いさゝます。
御異議ございませんか。

(「異議ありません」と呼ぶ者あり)

議長(鴻貫壯作君)御座。議ぎと認めます。

よ、よ同業は原案通り決定いらいしうて。

議長(鴻貫壯作君)日程第三議案第八号下工程いらいします。

(書記朗読)

議案第八号 東用自動車、購へんについて

。議長(鴻貫壯作君)議案第八号について御説明申しとります。

午前中七号議案にうりまして売却しうとする自動車

車、代りへん、一九六三年型プリンスクーリア下百三十三

万円で千葉プリンス自動車株式会社代表取締役社長

金村忠一より購へしうとするものでございます。

購入価格百三十三万円の田収でございます。すば一九六三

年型のプリンスは百十五万五千円でありまして、さら

に今までの自動車にはなか、スクーリア十七万五千円

で設備し合せて百三十三万円となるのでござります。

・二四番(飯田義男君)議案の申しおへ適当でないのので申し上げます。

百三十三万というグロリアははいわけをいまして、こゝにルームクーラー付と書いてないのとあとで誤解をまねくと思ふのです。

か。

・総務課長(山口史君)そのように返めます。

・議長(鴻貴壮作君)議案第八号原案通り決定いたします。
御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

・議長(鴻貴壮作君)御異議なしと認めます。

よって同案は原案通り決定いたします。

次へ下もらうとして全議案下議いたします。

これにて九月定例会下開会いたします。

午後五時五分開会

昭和三十六年九月三十日

右会議の次第を録し、に署名す

館山市議会議長

所 山 本 正 郎

同 署 長 議員

松 本 茂 彦

同

嶋 田 繁

